

各部会の報告（運営会議実施日： 9月3日時点）

※前回の開催については、報告済みの会議は除きます。

相談支援部会		
前回の開催内容報告	令和8年 8月 5日（水）13：30～15：00	参加人数 26名
今月の事例検討は、2事例を2グループに分かれて検討を行った。 本人の情報、生活歴等を整理し、本人の強み、課題、自分だったらどうする等の意見を出し合った。 1つ目の事例の内容としては、知的の方で就労Bを利用中の方で、自分の思いを上手く伝えられない方へのアプローチの仕方について、どのように思いを引き出すことができるだろうかとの概要で、検討を行った。様々な家族背景はある中、本人の強みがたくさんあること、好きなことを通した思いの引き出し方や言葉ではなく、文字などの表現をしていく等の意見交換ができた。 2つ目の事例では、精神障がいをお持ちの女性で、サービスが続かず、家族支援もある方の対応について、情報を整理していく中で、サービスが続かない理由として、医療との繋がりや病状の確認が必要であったこと等、改めて違う視点から意見をもらい、再アセスメントができた。 この事例検討会を通して、相談支援専門員が一人で抱え込まず、みんなで話せるでこの場を活用していくことを参加者みんなで確認ができた。 その後、情報交換を行い、事業所の近況報告と圏域相談事業所の相談等の情報を共有した。		
次回開催予定 ○令和8年度 10月 7日(水) 13：30～15：30 基幹相談支援センター研修会		
精神保健部会		
前回の開催内容報告	令和8年 8月 19日（水）13：30～15：00	参加人数 24名
今月の内容は、先月行なった「医療」をテーマに行ったグループワークについて、話し合った話題や課題等について振り返り、みんなで共有をした。 精神障がいの方への支援について、各病院の入退院等の実情や、地域の現状、訪問看護をはじめとする医療との繋がり方等について共有し、ケースを通して、地域で安心して暮らすために、「医療」の現状や生きづらさを抱えている課題について振り返りをした。 また、入院や退院の支援や精神障がいの方の長期入院の現状についてや、受診に繋がるのが難しい方の支援について、訪問看護の地域での役割等、支援者同志の連携の必要について確認ができた。 毎年行っているワールドカフェ形式の話し合いを通して、顔の見える関係作りができ、それぞれの専門性を活かして、役割分担をしながら地域の体制作りをしていくことを参加者で共有できた。		
次回開催予定 ○令和8年9月16日（水）13：30～15：00		

住まいの部会		
前回の開催内容報告	令和8年8月25日（火）13：30～15：30	参加人数 23名
今回は「問題解決しない事例検討会」の手法を用いた事例検討会を実施した。 事例提供者は株式会社つながり（専務取締役 菅原光利氏）。 「問題解決しない事例検討会」とは、解決策や評価・批判を行わず、事例の方への理解を深めることを目的とした手法（独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター）であり、質問・仮説生成・共有というステップで進める。 今回の事例は、精神障がいのある方で、ギャンブルやアルコールへの依存傾向、金銭管理の困難さ、破壊行為などの課題を抱えながら、グループホームでの生活を送っている方の事例であった。 検討の中では、本人の生育歴や生活スキルの背景、家族関係、これまでの就労・入院の経緯などを丁寧に整理し、「なぜそうなったのか」という視点ではなく、「本人はどのような状況にあるのか」という理解を深める視点で意見交換を行った。参加者からは、「安心できる場が少ないのではないか」「人との関係に不安があるのかもしれない」など、本人の内面に寄り添った仮説が多く出された。 事例検討後は座談会（フリートーク）を行い、情報交換の場となった。		
次回開催予定		
令和8年10月13日（水） 保健福祉センター多目的ホール テーマ：地域移行を支える～本人の希望を叶えるための連携とは～ 居住支援法人・不動産・相談支援事業所によるフリーセッション及びグループワークを予定。 なお、今回のテーマに沿い、通常の部会メンバーに加えて地域包括支援センター（4包括）及び計画相談支援事業所への参集拡大を予定している。		